

保育環境について考える (1)

原口 純子

教育要領が改訂されて六年を過ぎようとしています。保育は従来の活動を中心とした考え方から、環境を通して行う教育へと変わりました。しかし、この発想の転換がなかなかむずかしいことが、末端の現場の実態を通してわかります。

平成元年の告示から、文部省の中央研修、県の伝達講習、文部省の先生方の地方講演会、文部省指定園の教育課程研修会、県の指導方針説明会、各園を回っての計画訪問指導とあらゆる手をつくしてご指

導いただいているのです。

しかし、同じ事を何度説明されても、環境を通して行う教育というものを具体的にイメージが持てない人には、混乱こそすれ、どうしていいかわからないのです。

とりわけ「教師は活動を直接的に与えるのではなく幼児がそうした活動をしたくなるような環境づくりをするわけです」、と言われると、手も足も出せない気持ちになるのです。なにしろこれまで毎日、

「明日何をさせようかしら」と考えていたのですから。簡単に言えば、「活動ぬきに保育など考えられない」という感じではなかったでしょうか。しかし、これまでの保育のあり方を考え直すきっかけとなり、公立のA園は運動会に鼓笛隊を毎年やっていたのですが、取りやめになりました。また、別のB園では、毎日十時まで自由遊び、一斉片付けの後、室内で出席点呼、朝の歌、課題活動をしていたのを、取りやめて、朝から一日中を自由に遊ばせることにしました。

乏しい環境おまかせ保育

B園の先生は活動を与えるのを止めて、環境に保育をおまかせすることにしたのです。「うちの子どもは外遊びが大好きです、特にドッジボールが盛んです」との主任の先生の説明です。

なるほど、日本の幼稚園には設置基準があるのですが、どんな幼稚園でも、外遊びには様々な遊具や遊

べる環境が、結構、整っているのです。

ぶらんこ、すべり台、ジャングルジム、鉄棒等の固定遊具や、砂場、水道の水があります。砂場セツト、スクーターや箱車が倉庫に入っているし、園庭の周りには椿の花やこべ、白ツメクサがはえているし、飼育小屋にはうさぎが三匹います。広いグラウンドでは昨年、年長児がドッジボールをしていたのを知っているので、自分達で白線の枠を描いて、ドッジボールをしたり、サッカーゴールを出して、サッカーを自分達で始めることができます。外で幼児は環境にかかわってこれまでもかなり自主的に遊んでいたのです。

一方室内ではどうでしょうか。これまで十時から「おあつまり」と幼児を集めて課題活動をしていたのです。

B園の幼児が主体的にかかわることが出来る保育室の環境は、机、椅子、ままごとコーナー、人形やままごとセット、プラスチックのブロック類、個人

持ちの自由画帳、クレヨン、水性マーカー、はさみ、粘土、粘土ペラ、粘土板、のり等が個人のロッカーのお道具箱にはいっています。テーブルの上のかごに色紙（折り紙）二十枚位、飛行機等を作る広告紙のたば、窓際の出窓に金魚やザリガニの飼育箱、壁際の絵本箱に月刊保育絵本や他の絵本が十冊、その他幼児用テープレコーダー、園児が家庭から持ち寄る空き箱、廃材が入っているコンテナ、接着に用いるセロハンテープや布テープ類、わりばしやストロー、紙テープや布リボンなどです。

これらの環境や教材で生活する幼児の遊びを見ると、典型的な例は次のとおりです。

保育室に真ん中は空間をとり、端の方に机が二個ほど出してある。机の上にはなにも出ていない。幼児は登園してカバンを片付け、出席ノートにシールを貼ると外にとびだす。幼児が外遊びをせざるを得ない環境が整っているのです。外で遊びたくない幼児は個人ロッカーから粘土やクレヨンを持ち出し、

◀キャラクターものの絵を描く子が多い



粘土をする、絵を描く（セーラームーン等のキャラクターものや、ファミコンものの絵が多い）、男児数人がブロックで武器やロボットを作って、戦いごっこをして廊下や室内を走り回る。

テーブルで女兒が折り紙でヤッコさんやパッチンカメラをいくつも作る。

女兒がテープレコーダーを自分たちで持ち出し、ビニール紐で作ったボンボンを持ってセーラームーンを踊る。

幼児の室内遊びの環境は乏しく貧弱なものが多いのです。これは保育を食事に例えると、ごはん、味噌汁、ふりかけ、つけもので済ませているようなもので、栄養が悪くて伸び盛りの幼児の成長をささえることは到底できないのです。

それでは一体この保育の計画はどうなっているかと、週の保育案を見ると、例えば四歳の二月ですと、

ねらい・好きな遊びのなかで、いろいろイメージをわかせて遊ぶ

内容・つくったり、遊んだりするなかで、いろいろにイメージをわかす

・友だちに思いを伝えたり、友達の思いに気づいたりして遊びを楽しむ

ねらいも内容ももっともらしくできているので

す。環境は一年中乏しいが、ねらいや内容は時期に応じて変化していくのです。

四月頃は、

ねらい・自分の好きな場を選んだり、先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ

内容・安心できる場や遊びを見つけてかかわろうとする

同じ環境でも幼児はそれなりに育っていくので、教師のかかわり方やねらい、内容が変わることになるのです。

ある日幼児が室内で落ちて遊んでいると思うと、その日は豆まき用の豆入れ箱を作る日で、朝、登園した幼児から画用紙で、箱作りをしていたのです。飽き飽きするような毎日に新しい教材が出ていたのです。幼児が主体的に環境にとりかかって自主性を育てる保育も、昔ながらの行事の課題活動に支えられていることになるのです。

保育室の物的環境を吟味する

環境を通しての教育では、環境が物だけではない事が強調されています。ともすると物だけをそろえれば良いとか、物の環境に保育をおまかせしてしまう危険や危惧があるからです。もとより環境は自然の環境も人的環境も、近隣の社会的環境もとても大切です。けれども毎日生活する保育室の環境は細心の心配りが必要です。教師の髪型から服装などもそうですが、どんな物が保育室に置いてあるかは、直接その日の幼児の遊びを方向づけます。乏しい保育室では乏しい経験しか持たせられません。

樋口正春氏が外国の幼稚園の保育室に比べてあまりに貧弱な日本の保育室の環境を指摘され、「おもちゃも何もない部屋で子どもに遊びなさい」と言うのは、「根性で遊べ」といっているのと同じことである^{〔注〕}と書いておられますが、同感に思います。

(1) 個人持ちの教材

環境を通して行う教育が変わっても、身近な保育

室そのものが、課題活動時代のままになっている所が多いのです。

個人持ちの教材は全員が一斉に課題活動をする時には必要であったが、環境にかかわって主体的に遊ぼうと言う時には都合が悪いのです。言うなれば環境がロッカーにしまっているようなものです。

特に幼児は目の前の物に触発されることが多いのですから、「個人持ちにした方が片付けが楽だ」などというそまつな教師側の理由で、教材の有り様を決めてはいけません。絵を画くコーナーや粘土をするコーナーがあれば、「ぼくもしたい」「絵かきたい」とよってきます。

クレヨンもはさみも、粘土、粘土板、粘土ペラなども、みんなオープンにして、だれでもが使えるようにし、片付け等は、それなりに幼児と考えればよいのです。

環境で育てようとするならば、それなりに栄養価の高いというか、幼児が自然に遊ぶ中で十分に成長

を支えられるだけの物やかかわりが必要なのです。

(2) ブロック類

プラスチックのブロック類はこの保育室の中にもあります。

色がついている、壊れにくい、一人でも何人でも遊べる、構成遊具として平面でも立体でも遊べる、管理がしやすい、危険が少ない、等優れた面も多いのですが、遊んでいる実態は男児がロボットを作ったり、武器を作ってダダダッと人を撃つまねをしたり、戦ったり追いかけて駆け回る遊びが多いのです。保育室に置いておけば年少の四月でも年長児でも遊びます。従って、これは、幼児の育ちを見ても、どの時期に片付けるかの見極めが必要です。

(3) 折り紙や空き箱 その他

折り紙や空き箱は手軽に手に入る極めてイージーな教材です。どの時期に何を育てたいから置いているという理由なしに、置いておけば遊ぶという安易な出し方をやめなければ、幼児は別の遊びを経験す

る機会を失います。好きで折り紙や空き箱をしているというより、他に何もやりたいものが見つからないからやむなくやっていることもあります。

物の環境にこだわる

すっかりマンネリ化している保育環境は、担任の教師のせいとばかりはいえません。保育のビジョンを持ち、育てたい幼児像を持ち、教育課程を組み、教師を指導し予算を持って運営に当たっているのは他ならぬ園長なのですから。幼児にとって最も大きい意味での環境は園長かもしれません。

かつてある幼稚園を見学した時に、廊下の書棚がディズニーや日本昔話などのビデオテープと紙芝居と折り紙でいっぱいになっているを見て、この園が何を大切に思っているか予算を使ってきたかがわかりました。

さて、私は前年度の予算で、木製のレンガ積み木(三・三cmを一辺の基尺とし、縦横の比率一・二)



▶レンガ積み木で遊ぶ

や木の動物、様々なパズルやゲームを購入し、幼児のままごとコーナーにはPTAのお母さんをお願いしてウォドルフの手作り人形を入れてみました。

*木製のレンガ積み木

手触りのよさ、自然な色、安全性、積んだりくずしたりする楽しさ、一人でも何人でも遊べること等、木製の動物と合わせて楽しいコーナーとなつて

います。

積み木と言えば近頃大型箱積み木や、ウレタンのカラー積み木等が中心で、小型の小さな積み木は忘れられていたように思います。

ブロックというのは崩れない良さがあるのですが、逆に砂同様、レンガ積み木は崩れる良さを感じます。やたらに武器を作つて駆け回ることもないし、小型積み木には他のものが越えられない良さを感じます。

*パズル・ゲーム

遊びのコーナーのパズルやゲームを充実させてみました。オセロ、ジグソーパズル、カルタ、トランプ、コリントゲームなどは以前にもあったのですが、ロボの荷物や、メモリー等、何人でも遊べてルールのやさしい遊びは幼児に適したのと言えましよう。

特にロボの荷物は荷物の薪を人数分配りロボの荷台に一本ずつ載せるのですが、指先に神経を集中さ



▶ゲーム「ロバの荷物」

せて真剣に薪を載せるのです。薪を落とした人は落ちた薪をもらいます。早く薪のなくなった人の勝ちです。

ゲームのよさは、人間関係の平等性にあると思います。ごっこ遊びも、外遊びも人間関係の力に振り

回されやすいのです。お母さんになれない幼児、赤ちゃんや犬にばかりさせられる幼児、縄跳びの縄ばかりまわしている幼児等、遊びの人間関係は厳しいのです。ゲームはルールや順番があつて、関係が平等に保てるのです。遊びに入りにくい幼児や弱い幼児も楽しめます。

＊ウオールドルフのぬいぐるみ人形

シュタイナー教育思想を背景に生まれた人形と言われるこの人形は、中身に特に弾力性のある羊毛がしっかり詰められていて、適度の重さと弾力性があり、洗う事もできるすぐれものです。むっくりふとっていて、目も口もそれとわかる程度に小さくついています。細くて美人のリカちゃん人形とは対の極にあるような抱き人形です。

クラスではみんなで名前を付けて、クラスのメンバーとしてかわいがります。着せかえになっており、パジャマやお出掛けと着せ替えたり手をかけて遊び、散歩にも連れて行き、プールもいっしょに入

◀ お手製のウォルドルフのぬいぐるみ



れて遊んでしまいます。幼児の分身のような人形で
す。

まとめ

幼児が毎日生活をする保育室の中の物の環境を考
えてみました。どんなに物のない貧弱な環境でも、
幼児は文句も不平もいけません。部屋がつまらなけ
れば、さっさと外遊びに出掛けます。本当にドッジ
ボールばかりが好きだったのでしょうか。大人はエ
ネルギーをかけて情報を集めて、幼児が「やってみ
たい」「ほくも」と言えるような美しく、確かな環
境を整えなければなりません。

けなげで、いとおいしい子たちのために。

(茨城県公立幼稚園)

〈注〉

『げ・ん・き』No.21 エイデル研究所「援助する保育に
おけるおもちゃの役割」P.79